

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和5年5月9日（火）

### 2 確認箇所

日本海溝津波防潮堤設置工事現場（1～4号機東側）

### 3 確認項目

日本海溝津波防潮堤設置工事の状況

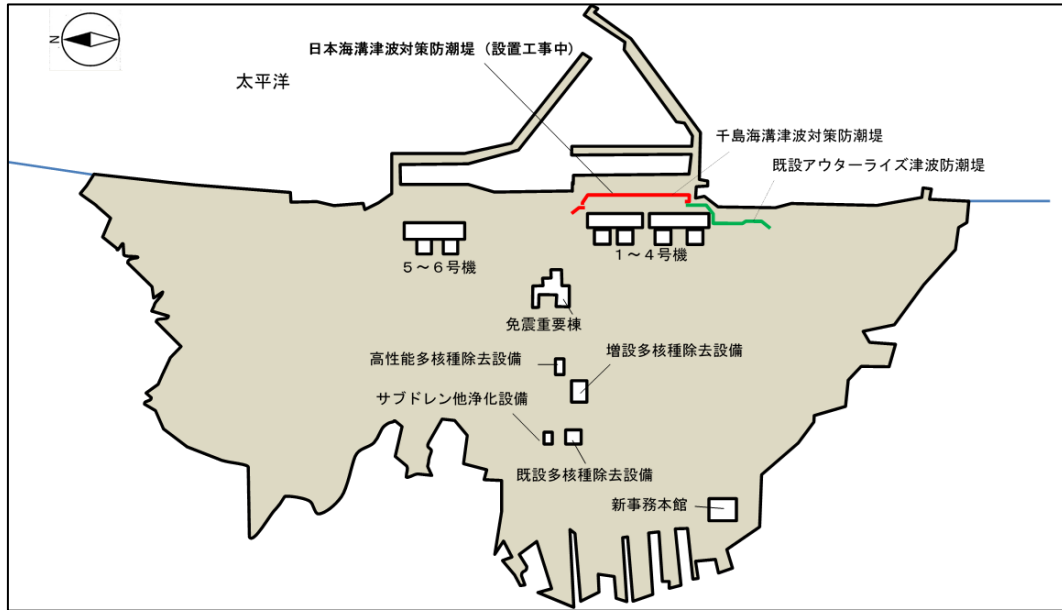
### 4 確認結果の概要

1～4号機東側及び4号機南側において進められている日本海溝津波防潮堤設置工事※のうち、今回は、1～4号機東側の状況を確認した。（図1）（前回確認日：[令和4年8月10日](#)（1～4号機東側）、[令和5年3月1日](#)（4号機南側））

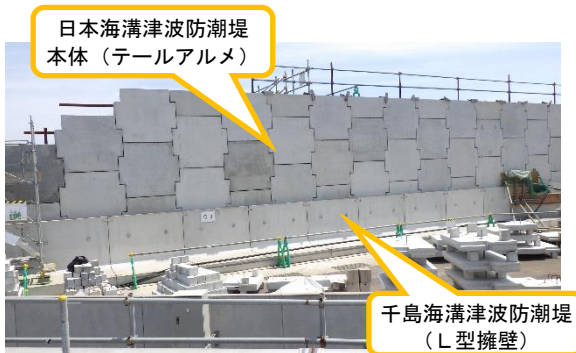
- ・ 1～4号機東側の防潮堤本体のテールアルメは、北端部及び南端部を除いて、所定の高さ（T.P. 13.5～15.0m）まで構築されていた。（写真1）
- ・ 防潮堤の西側（山側）では、北側の乗入道路の整備工事が開始されていた。（写真2）
- ・ 防潮堤には、防潮堤内が海水で浸水した場合に海水を海側に排水するフラップゲートが設置されていた。（写真3）
- ・ 1～4号機東側の海側法面補強工事は、北端部を除いて完了しており、乗入道路の整備が行われていた。（写真4）
- ・ 4号機南東側においては、法面補強のための石炭灰混合資材の搬入や打設作業が行われていた。（写真5）

※ 日本海溝津波防潮堤設置工事：令和2年4月に内閣府「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」が日本海溝津波の発生が切迫していると評価したことを踏まえ、東京電力では、T.P. 11.8m規模と推定される日本海溝津波に対応するために、1～4号機東側の千島海溝津波防潮堤（津波規模：T.P. 10.3m 令和2年9月設置）及び4号機南側のアウトサイズ津波防潮堤（津波規模：T.P. 4.1m 平成23年6月設置）に代わる日本海溝津波防潮堤の設置工事を今年度下期の完成予定で進めている。

日本海溝津波防潮堤工事では、海側の法面を補強するとともに、コンクリート壁を垂直に設置し盛土していくテールアルメ工法によりT.P. 13.5～15.0mの高さの防潮堤本体を構築する。構築された防潮堤本体は場内道路として活用される。なお、法面補強やテールアルメの盛土材は、福島第一原子力発電所に隣接して建設されたバッチャープラントで製造した石炭灰混合資材（石炭灰とセメントを混合させた人工地盤材料）を使用している。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
防潮堤本体の状況① (防潮堤北側を北西側から撮影)



(写真1-2)  
防潮堤本体の状況② (防潮堤南側を南西側から撮影)



(写真 1 - 3)  
防潮堤本体の状況③ (防潮堤北端部を北側から撮影)



(写真 2 - 1)  
北側乗入道路の整備状況①  
(1号機東側を北西側から撮影)



(写真 2 - 2)  
北側乗入道路の整備状況②  
(1号機東側を南側から撮影)

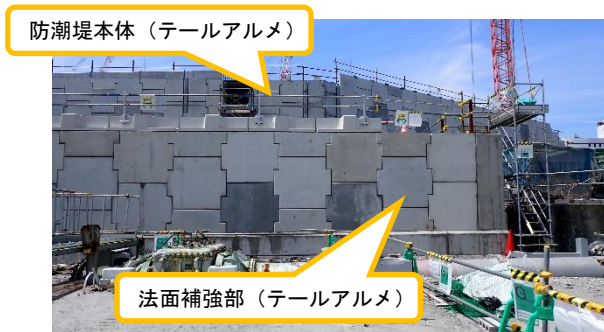


(写真 3)  
フラップゲートの設置例 (防潮堤本体海側を南東側から撮影)



(写真4-1)

1～4号機法面補強工事の状況①  
 (3号機東側の海側を北東側から撮影)



(写真4-2)

1～4号機法面補強工事の状況②  
 (海側の北端側を南東側から撮影)



(写真5)

4号機南東側法面補強工事の状況  
 (4号機南東側を北東側から撮影)

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。